

# 広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 新人作業療法レジデント

2020年7月

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門作業療法部門

## I. 背景

人口の高齢化とともに、要介護高齢者を始め作業療法を必要とする人は増え続けている。一方、2016年現在では年間約 6000 人の作業療法士が輩出されているが、数の増加と共に作業療法の質を疑問視する声も聞こえており、卒後教育の充実が求められている。すでにいくつかの施設では臨床的・クラークシップを導入し、卒後教育の充実を図っている。

一方、卒後教育を実践している施設は回復期を担う病院が多く、高度急性期医療を提供する医療機関における作業療法の卒後教育システムについては期待に応えられているとは言えない。また、昨今では急性期病院から直接在宅に退院したものの、ソフトランディングが不十分なため、退院後に廃用症候群を呈し要介護状態に至るケースが問題視されている。高度急性期医療に対応でき、在宅生活を見据えたケースマネジメントを実践できる作業療法士を育成し、その教育システムを確立・推進していくことは国立大学病院の責務でもある。

## II. 目的

高度急性期医療に対応でき、在宅生活を見据えた作業療法を実践できる作業療法士を育成し、教育システムを確立・推進すること。

## II. 基本理念

- エンパワメントを活かし、生活再建できる作業療法士の育成
- 創造力を高め、尊厳ある生き方の支援が出来る作業療法士の育成

## III. 基本方針

- 生活行為向上マネジメントの実践
- 高度急性期医療における在宅支援までを見据えた包括的な実践
- 研究活動の実践

## IV. 目指す作業療法士像

- 急性期から患者の生活を想像して、生活を創造することが出来る作業療法士
- 急性期から生活期まで一貫して自立支援を考え、発信出来る作業療法士
- 作業療法士として「信念」を見いだせる作業療法士
- 多面的に思考し、主体的に行動出来る作業療法士
- 臨床での「感動」を語る作業療法士
- 患者様のために粘り強く考え、もがき続ける事が出来る作業療法士
- 子どもの発達・成長を理解し、個性を活かすことが出来る作業療法士

## V. 研修内容

がん疾患、脳神経疾患、循環器疾患、小児発達、高度急性期、乳がん・リンパ浮腫、ハンドセラピー